



北本市長 三宮 幸雄氏

市長のメッセージ

北本市は、都心にほど近い立地でありながら、里山や雑木林などの緑が暮らしと隣り合う、自然豊かなまちです。

昨年10月には、本市のデーノタメ遺跡が正式に国の史跡として指定されました。自然と共生し、資源を循環させ、長く続いた縄文時代のライフスタイルは、SDGsが謳われる現代において、未来の生活を考えるためのヒントなのかもしれません。

今後も、先人たちが築き守ってきた歴史と文化、そして豊かな緑を次世代へと継承するとともに、将来を見据えた持続可能なまちづくりを目指し、全力で市政運営に取り組んでまいります。

はじめに

北本市は、埼玉県の中央部、都心から45km圏内に位置し、北と東は鴻巣市、東と南は桶川市、西は川島町と吉見町に接している。鉄道は、市のほぼ中央をJR高崎線が南北に走り、市内には北本駅がある。高崎線に並行して旧中山道、国道17号が走っているほか、圏央道が市の南部を横断している。圏央道の開通により、交通の利便性が飛躍的に向上した。

北本の特産品といえばトマト。和菓子や餃子などの素材として使用されているが、なかでも有名なのが北本トマトカレーである。各地のグルメイベントでグランプリをはじめ数々の賞を受賞している。

豊かな自然にも恵まれており、貴重な野生動植物のすみかで、県内初の「森林セラピー基地」に認定された北本自然観察公園や、樹齢約800年、1922年に国の天然記念物に指定され、日本五大桜の一つに数えられる名木「石戸蒲^{いしとかば}ザクラ」など多くの観光スポットがある。



「みどりとまつり-&green fes-」の音楽ライブの様子

☀️ 「みどりとまつり-&green fes-」3月20日開催

「&green-豊かな緑に囲まれた、ゆったりとした街のなかで、あなたらしい暮らしを-」。これが北本市のシティプロモーションコンセプト。これを体現するイベントが、春分の日^{3月20日}に北本総合公園で開催される「みどりとまつり-&green fes-」である。

焼き菓子やお弁当、クラフト雑貨など約100店の魅力的なお店が出店するマーケットのほか、音楽ライブ、大道芸、ダンス、ワークショップなど、たくさんのイベントが楽しめる。

まつりのサブタイトルは「みどりのまちに暮らすわたしたちのおまつり」。立場も年齢も障がいの有無も異なる「わたしたち」が、自分たちらしく楽しめるまつりであるようにとの思いが込められている。この思いを広めるべく、今年のまつり開催前には社会福祉協議会の手話通訳者とコラボしたインスタライブにも挑戦した。

「みどりとまつり」の運営をサポートするメンバーが「ひこばえ隊」。応募により集まった市民等によるボランティアチームである。年齢も性別も様々なメンバーが参加し、開催の数カ月前から準備を進める。皆で会場周辺を散策してオリジナルツアーを考えたり、市役所や社会福祉協議会の職員とチームになって、イベント当日の内容等を検討していく。昨年初めて開催した、子どもによる子どものための「こどもまつり」も「ひこばえ隊」の発案で、当日はアクセサリーなどの手作りグッズ販売、マジックショーやスタンプラリーなどを開催、大盛況だった。

北本市概要

人口(2025年1月1日現在)	65,274人
世帯数(同上)	30,966世帯
平均年齢(同上)	50.5歳
面積	19.82km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	81所
製造品出荷額等(同上)	704.5億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	387店
商品販売額(同上)	1,230.0億円
公共下水道普及率	75.0%
舗装率	75.5%

資料:「令和5年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR高崎線 北本駅
- 圏央道 桶川北本ICから市役所まで約4km
- 圏央道 桶川加納ICから市役所まで約5km

🌟 ふるさと納税型クラウドファンディングで12事業を実現

北本市は、令和5年度のふるさと納税寄附額が約12億円となり、4年連続で県内1位になった。約260品の返礼品を提供しており、銀座英國屋オーダースーツ仕立て補助券、グリコピアイーストセット、北本トマトカレーのほか、七宝作家による工芸品なども人気となっている。

寄附した方には、返礼品を送るだけでなく、定期的に「ふるさと納税感謝ツアー」を開催している。返礼品事業者の制作現場や圃場を訪れ、見学や収穫体験を通じて事業者と寄附者が交流できる。トマト狩り、いちご狩り、工場見学、さつまいも掘りなどが行われ、参加者からは北本の魅力を体感できると好評だ。

「ふるさと納税型クラウドファンディング」にも取り組んでいる。市の活性化につながるプロジェクトを募集し、その実現に必要な資金を、市がふるさと納税の仕組みを活用してクラウドファンディングで集める。応援したいプロジェクトに直接寄附をすることができる。



「きたもと縄文まつり2024」のくろみ割り体験

「使い方を明確に選んで寄附したい」などの要望に応え、令和元年度よりスタートした。これまでに「北本団地商店街『まちの工作室』プロジェクト」など、様々なジャンルの12事業を実現した。

🌟 「デーノタメ遺跡」が国指定史跡に

昨年10月11日の官報告示により、「デーノタメ遺跡」が国指定史跡になった。デーノタメ遺跡は、縄文時代中期(約5,000年前)～後期(約3,500年前)にかけて、約1,500年間営まれた大規模集落跡である。台地上の居住域には多数の竪穴住居跡が広がり、中期の環状集落は関東最大級を誇る。遺跡名は、昭和40年代までこの地にあった湧水によるため池の名前「デーノタメ」に由来している。

集落のすぐ近くの低地に水場が残されていたため、通常では土中で腐ってしまうクワミなどの植物の種や実、漆塗土器、昆虫の羽などが大量に出土した。地下水に満たされた「泥炭層」によって、遺物が空気から遮断されるため、通常の遺跡では残らない有機質の遺物が当時の姿のまま残っている。集落と水場の2つがセットで残る遺跡は全国的にも珍しく、この遺跡の大きな特徴となっている。

国指定を受けて、昨年11月30日には「きたもと縄文まつり2024」が開催された。音楽やトークイベント、縄文文化を体験できる弓矢体験、土器づくり体験、くろみ割り体験、「縄文鍋」試食会などが行われ、多くの人でにぎわった。(樋口広治)